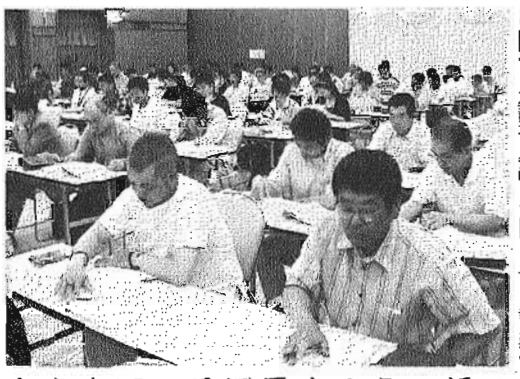
日本産廃処理振興センター講習会

収集・運搬の知識習得

(財)日本産業廃棄物処理振興センター（古市圭治理事長、東京都）は20日、鹿児島市のホテルウェルビューかごしまで「産業廃棄物処理業の許可申請に関する講習会」を開いた。県内外から関係者170人が受講し、産業廃棄物の収集・運搬業の許可を受ける上で必要な知識や技能等について学んだ。



テキストをもとに受講する参加者＝鹿児島市のホテルウェルビューかごしまで

講義では、行政概論について県環境生活部環境整備課の山口広行主査らが解説。近年の法改正等を踏まえ、「環境に重大な影響を及ぼす可能性がある廃棄物。収集・運搬にあたっては、高い技術力と正しい知識を身に付け、社会的責任を十分に理解して業務に携わらなければならない」とし、処理計画の必要性や委託基準等について触れた。

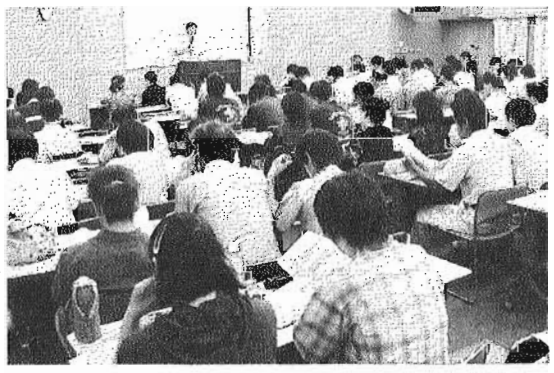
このほか、環境衛生に関する法令について県工業高等専門学校土木工学科の山内正仁助教授が説明。循環型社会の実現に向け、「環境負荷の低減はもちろん、廃棄物の発生抑制や循環資源の利用促進等による作業などについて説明した。参加者は持参したテキストを熱心に聴講した。

講習会は、きょう21日までの2日間、同会場で開催。講義終了後は修了考査を実施し、合格者には後日修了証が交付される。

県ビルメン協会作業従事者研修

ビル管理法を解説

県ビルメンテナンス協会（野元一喜会長）は20日、鹿児島市のポリテクセンター鹿児島で17年度第1回清掃作業従事者研修を開き、関係者ら約130人が参加。ビル管理法やビルメンテナンス業における廃棄物処理などについて学んだ。



約130人が参加し行われた研修会＝鹿児島市のポリテクセンター鹿児島で

研修会では初めに、野元会長の挨拶の後、県保健福祉部生活衛生課の山下光太郎技術主査が「ビル管理法と清掃」について解説したほか、鹿児島市環境局清掃部ゴミ減量係の担当者からは「ビルメンテナンス業におけるゴミ廃棄物処理」などについてそれぞれ講習を行った。

また、協会の各担当講師が「ビル管理法と今後の課題等について」と題して話した。

県鉄構工業会青年部会地引き網

約70人が親睦深める

県鉄構工業会青年部会（新原良孝部会長）は17日、日置市吹上町の入来浜で地引き網大会を開いた。参加した会員やその家族らは、収穫した魚でバーベキューを行うなど、楽しい一日を過ごした。

網を手繰り寄せる参加者＝日置市吹上町の入来浜で

同部会にとって初の試みとなった大会には、早朝から約70人の会員や家族連れらが訪れた。沖に沈められた網を、威勢の良いかけ声とともに浜辺に手繰り寄せると、跳びはねる魚に参加者は大喜び。収穫した魚は、砂浜でバーベキューを行うなど、笑顔で夏の一日を楽しんだ。また、大会後は浜辺の清掃活動も行った。

初の地引き網大会に、新原部会長ら約70人が参加し、大いに盛り上がった。

国際シンポ「建築・環境の時間設計」

23日から霧島町等で

世界的な建築家並びに研究者らの集まる第2回国際シンポジウム「建築・環境の時間設計」が23日から28日までの6日間、霧島町の霧島ロイヤルホテルや牧園町の霧島国際音楽ホール（みやまコンサール）などを主会場に開催される。

シンポジウムは、〝時はいのち〟の理念のもと、人の〝いのち〟の三つのステージ、肉体のいのち、心のいのち、個性のいのち、それぞれにとって快適な時間をどのように設計するか、国際的なレベルで議論するもの。

主な公開プログラムは次の通り。

【24日】

トーマス・ボスワース氏（アメリカ・ワシントン大学名誉教授）特別講演「感性と自然環境を融合させるヒルサイドレジデンスの設計例－安藤ハウス－」＝午前9時から霧島ロイヤルホテル▽安藤ハウス見学会、九面太鼓の演奏＝午前10時40分～11時40分、牧園町高千穂3917－680

【27日】

安藤四一氏（神戸大学名誉教授）基調講演「いきいきした新しい都市を育む基本理念－環境の時間設計について－」＝午後3時40分から国分市の国分シビックセンター▽海外研究者らによるパネルディスカッション＝午後4時30分～5時30分、国分市の国分シビックセンター

【28日】

堤剛氏（桐朋学園大学・インディアナ大学教授）特別講演「コンサートホール・オペラハウスにおける音楽演奏と音響空間との融合」と音響研究者による音響効果のデモンストレーション＝午前9時～11時50分、みやまコンサール

お手軽で便利な購読料のお支払いは
自動振替で
鹿児島建設新聞
099-227-5100へ

奄美市廃置分合決定書交付式

幸せもたらすまちづくりを

県は19日、18年3月20日に発足予定の「奄美市（名瀬市、住用村、笠利町）」に対し、伊藤祐一郎県知事が廃置分合（合併）決定書を交付した。

交付式では、県知事から平田隆義名瀬市長に決定書が手渡された。記者会見で平田市長は「島の人達に幸せをもたらすまちづくりをスタートしたい。また、バランスのとれた行政運営をしていくかが課題であり、足並みをそろえていきたい。将来、島が一つになればと考えている」と今後の課題と抱負を力強く語った。

記者会見で課題など語る平田名瀬市長＝鹿児島市の県庁で

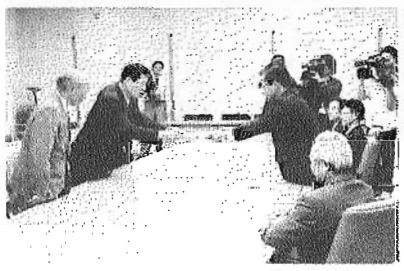
「奄美市」は、人口約5万1898人（H12年国勢調査）、面積約306・07㎢。事務所は現在の名瀬市役所に置き、地域審議会は設置しない。

いちき串木野市廃置分合決定書交付式

10月11日に発足へ前進

合併で10月11日に発足予定の「いちき串木野市（串木野市、市来町）」は19日、鹿児島市の県庁で伊藤祐一郎県知事から廃置分合（合併）決定書の交付を受けた。

交付式では、伊藤県知事が「6月の議会で合併の議案などを可決し、14日に総務大臣へ決定の届け出を済ませており、8月初旬には告示がなされることになる」と述べ、田畑誠一串木野市長に決定書が手渡された。



知事から決定書の交付を受ける田畑串木野市長＝鹿児島市の県庁で

「いちき串木野市」は、人口約3万4266人（H12年国勢調査）、面積約112・02㎢。事務所は現在の串木野市役所に置き、地域審議会は設置しない。

志布志市廃置分合決定書交付式

来年1月1日発足へ

県は19日、鹿児島市の県庁で18年1月1日に発足予定の「志布志市（松山町、志布志町、有明町）」に対し、伊藤祐一郎県知事が廃置分合（合併）決定書を交付した。

交付式では、伊藤知事が「県議会での承認を受け既に総務大臣への届け出も終えており、来年1月の合併まで今後もさらにご尽力を」と述べ、決定書を手渡した。また、3町を代表して慶田泰輔志布志町長が「3町の合併によって行政サービスが滞りなく行われるように努めたい」と決意を語った。

決定書の交付を受ける慶田志布志町長＝鹿児島市の県庁で

「志布志市」は、人口約3万5966人（H12年国勢調査）、面積約289・47㎢。事務所は現在の有明町役場に置き、地域審議会は設置しない。

南さつま市廃置分合決定書交付式

11月7日の合併へ

伊藤祐一郎県知事は20日、鹿児島市の県庁で11月7日に発足予定の南さつま市（加世田市、笠沙町、大浦町、坊津町、金峰町）を構成する1市4町に廃置分合決定書を交付した。伊藤知事は、14日に総務大臣へ廃置分合決定の届け出を済ませており、8月初旬に告示される見込み。

川野加世田市長に決定書を交付する伊藤県知事＝鹿児島市の県庁で

決定書交付式では、伊藤県知事が川野信男加世田市長に決定書が交付。これを受け、川野加世田市長は「〝自然・人・文化を育み、みんなでつくる誇りとぬくもりのまち〟という目標に向かって努力していく」と抱負を述べた。

「南さつま市」の概要は、人口約4万3979人（H12年国勢調査）、面積約283・3㎢。事務所は、現在の加世田市役所に置き、地域審議会は旧市町の区域ごとに設置する。